

## 特集：書評コロキウム 波平恒男著『近代東アジア史のなかの琉球併合』

中野 敏男

本特集は、2015年5月30日に東京外国語大学（本部管理棟大会議室）で開催された「書評コロキウム 波平恒男著『近代東アジア史のなかの琉球併合』」を踏まえて、当日書評者として発言した康成銀氏（朝鮮大学校）と高江洲昌哉氏（神奈川大学・明治大学）、および、コメンテーターとして発言した権赫泰氏（韓国・聖公会大学）に、それぞれ自身の口頭報告を広げて論じた独自の論考を新たに書いていただき、それに対するリプライという形で著者である波平恒男氏（琉球大学）にも論考を書いていただいて、それらをここにまとめて掲載するものである。

波平氏の著書『近代東アジア史のなかの琉球併合』（岩波書店、2014年刊）を、このように本学のやや大規模な書評コロキウムで取り上げ、それを一般に公開して広く論ずる機会を持つことになった背景には、本学を拠点とした長年にわたる共同研究の営みと、それに結びついて続けられてきた波平氏及び屋嘉比収氏（故人：沖縄大学）を中心とする沖縄の研究者たちとの研究連携の歴史がある。それは、本学が助成を申請して採択された二つの科学研究費補助金受給プロジェクト、すなわち課題名「総力戦体制後の社会とポストコロニアルの文化」（1998年度～2000年度科学研究費補助金受給 基盤研究(A) 研究代表：中野敏男）と課題名「変容する戦後東アジアの時空間——戦後／冷戦後の文化と社会」（2003年度～2006年度科学研究費補助金受給 基盤研究(A) 研究代表：中野敏男）とを基盤として組織され、「戦後東アジアプロジェクト」とも呼ばれていた国際共同研究であって、この共同研究の射程は、総力戦体制と植民地主義の継続・変容に関心の中心に据えながら、時間的には日本の「近代」に当たる時期を見通して冷戦終結後の今日まで、空間的には日本、沖縄を超えて、朝鮮半島から中国・台湾を含む東アジア全域を広く包括するものとなっている。この共同研究の過程では、シンポジウムや研究会や調査活動など数多くの研究のための共同事業が組織されていて、小さな研究交流や研究会議、あるいは大小の

資料調査・フィールド調査まで含めると、実施された事業の類はおおよそ数知れないが、比較的大きな規模で組織された共同研究のための国際的シンポジウムのみを列挙すると、つぎのようなものが挙げられる。

### 第1回 帝国の総力戦体制と植民地空間

日程：1998年7月21日

会場：東京外国語大学

第一報告 George Lipsitz (UCSD)

“Total war, Colonialism, and the Racial State”

コメント：上野俊哉

第二報告 駒込武

「帝国の総力戦と植民地主義」

コメント：李孝徳

### 第2回 ジェンダー・歴史・サバルタン性 ——せめぎあうカテゴリー、発話の場

日程：1998年10月5日

会場：東京外国語大学

第一報告 Joan W. Scott (Princeton 高等研究所)

“Some Reflections on Gender and Politics”

コメント：千田有紀

第二報告 岡真理

「彼女の『正しい』名前とは何か」

コメント：鶴飼哲

### 第3回 ワークショップ in 沖縄

日程：1999年1月5～8日

会場：琉球大学、那覇東急ホテル

- ◆自由報告
1. Victor Koschmann (Cornell)
  2. Tessa Morris-Suzuki (ANU)
  3. Takashi Fujitani (UCSD)
  4. Meaghan Morris

## 14 特集：書評コロキウム まえがき

### ◆テーマセッション

1. 『グローバリゼーションの中のアジア』（未来社）をめぐって

討論者：酒井直樹（Cornell）、伊豫谷登士翁、  
Tessa Morris-Suzuki（編者）、  
大内裕和、李静和

2. 『近代沖縄の精神史』（社会評論社）を読む  
報告者：比屋根照夫（琉球大、著者）

討論者：米山リサ、篠原琢、中野敏男

### 第4回 脱植民地化の欲望・グローバルな市場

日程：1999年9月18日

会場：東京外国語大学

第一報告 史書美（UCLA）

“Globalization and Minoritization”

第二報告 丸川哲史

「台湾ニューシネマと脱植民地化をめぐって」

コメント：坂元ひろ子、本橋哲也

### 第5回 コロニアリズム／レイシズムを問う場所、語る位置

——《沖縄》という場で考える

日程：1999年12月17～19日

会場：沖縄県男女共同参画センター・ていりる

### ◆主題報告

1. 新川明

「自分史の中での『反復帰』論」

討論：屋嘉比収（沖縄大）、ひろたまさき

2. Takashi Fujitani

「ライシャワー元米国大使の傀儡天皇制構想」

討論：波平恒男（琉球大、沖縄という視点から）

3. Victor Koschmann

“On War Apologies: the Shazai shutai/ Kokumin  
Shutai Issue”

討論：吉田俊実

### ◆共同討議 1. 課題としてのコロニアリズム／レイシズム

発題：駒込武、岡真理、尹京順（淑明女大）

応答：米山リサ（UCSD）

### ◆共同討議 2. 責任の所在、問う場所、語る位置 第一部：「日の丸・君が代」と「国民主義批判」の諸問題

司会：岩崎稔 発題：李孝徳

応答：酒井直樹

### 第二部：「日本人としての責任」と『共生』の課題

司会：中野敏男 発題：Brett deBary (Cornell)

応答：Tessa Morris-Suzuki

### 第6回 「戦後」という問題

——日米関係のなかで

日程：2000年10月30日

会場：Cornell University (USA)

第一報告 山之内靖

「NHK 特集「ジョン・ダワー『日米の抱擁』」  
をめぐって」

第二報告 千田有紀

“The Problematique of Family Sociology in  
Japan”

### 第7回 戦後東アジアとアメリカの存在

——《ポストコロニアル状況》を東アジアで考える

日程：2001年1月26～27日

会場：東京外国語大学マルチメディアホール

### ◆第一日目

◇第一セッション：東アジア戦後史の中のアメリカの存在

司会：岩崎稔、尹京順

第一報告 鳥山淳

「米軍にとっての沖縄、沖縄にとっての米軍」

第二報告 権赫範（大田大）

「グローバリゼーション、アメリカ化、韓国の民族主義」

討論者：駒込武、米谷匡史

◇第二セッション：東アジアのポストコロニアル状況とアメリカニズム

司会：大川正彦、千田有紀

第一報告 史書美

“Hong Kong Cinema and the Problem of National Allegory”

第二報告 吉見俊哉

「アメリカニズムの中のナショナリズムの再構成」

討論者：金恩実（梨花女大）、丸川哲史

◆第二日目 パネルディスカッション

問題提起 〈ポストコロニアル状況〉を東アジアで考える

司会：岩崎稔 趣旨説明：中野敏男

第一報告 波平恒男

「大城立裕に見る戦後沖縄人の相貌」

第二報告 李孝徳

「ポストコロニアルの政治と在日文学」

第三報告 成田龍一

「『国民の物語』のかたち」

第四報告 ムン・ブシク

「光州と反米：『亀裂の中の反復』を越えて」

討論者：比屋根照夫、酒井直樹、

Tessa Morris-Suzuki

第8回 postcolonial 時代における在日朝鮮人

日程：2003年2月14～15日

会場：韓国・淑明女子大学校行政館

主催：東アジア社会文化研究フォーラム（準）

◆2月14日 プレセッション

司会 崔真碩、金慶允

報告 崔徳孝、須永陽子、李榮珍（ソウル大院）

◆2月15日

午前の部 司会：岩崎稔

第一報告 徐京植

「半難民から見えてくるもの」

第二報告 権赫泰（聖公会大）

「ザイニチチョウセンジンと在日朝鮮人」

応答：中野敏男「日本の“戦後”という視点から」

コメント：崔真碩、板垣竜太、

康誠賢（ソウル大院）

午後の部 司会：権赫範

第三報告 Tessa Morris Suzuki

「占領目的に有害な行為——植民地主義、国境警備、在日朝鮮人——1945-48」

第四報告 宋連玉

「在日朝鮮人女性とは誰か」

応答：岩崎稔

コメント：金恩実、大川正彦、金富子

全体討論 司会：尹京順、李孝徳

第9回 東アジアの「戦後」を問う  
——植民地主義の再編と継続する暴力

日程：2004年1月10～11日

会場：東京外国語大学海外事情研究所、  
マルチメディアホール

◆第一部 共同集中討議「戦後」を構成する暴力

◇第一セッション：〈分断〉の原史

第一報告 荒敬

「GHQの東アジア占領戦略」

第二報告 屋嘉比収

「顕現する国境」

コメント：Tessa Morris-Suzuki

◇第二セッション：継続する暴力

第一報告 宮城公子（名桜大）

「暴力表象の遅延——沖縄『戦後文学』とジェンダー問題」

問題提起 板垣竜太

「植民地支配責任の再定立に向けて」

◇第三セッション：総合討論

討論者：何義麟、酒井直樹

◆第二部 パネルディスカッション 植民地主義の継続とジェンダー

司会：岩崎稔 趣旨説明：中野敏男

◇第一セッション：暴力の記憶と身体の表象

第一報告 金富子

「植民地期・解放直後の朝鮮における公娼認識——女性の身体をめぐる忘却のナショナリズム」

## 16 特集：書評コロキウム まえがき

### 第二報告 尹京順

『『基地村』問題の成立と展開——ユングミ事件が突きつけるもの』

### ◇第二セッション：解放／「敗戦」／移動の記憶

#### 第一報告 成田龍一

『『引き揚げ』体験とジェンダー——『流れる星は生きている』と『灰色の丘』』

#### 第二報告 高和政

「密航・民族・ジェンダー——在日朝鮮人文学に見る〈人流〉」

### ◇第三セッション：全体討論

討論者：杉原達、宮城公子、土佐弘之、  
酒井直樹、Tessa Morris-Suzuki、  
Victor Koschmann

## 第 10 回 批判的フェミニズム・ワークショップ

日程：2004 年 6 月 26 日

会場：東京外国語大学海外事情研究所

#### 1. 米山リサ (UCSD)

「植民地主義・暴力・戦争に抗する批判的フェミニズムの可能性」

#### 2. 金富子

「米山リサ『批判的フェミニズムの系譜と女性国際戦犯法廷』をめぐって」

#### 3. 秋林こずえ

「沖縄のフェミニスト平和運動『基地・軍隊を許さない行動する女たちの会』との関わりから『批判的フェミニズムの系譜』を考える」

#### 4. 河野真太郎

「批判的フェミニズムの可能性」

#### 5. 千田有紀

「批判的フェミニズムという概念をめぐって」

## 第 11 回 東アジアの「占領」と「復興」を問う——暴力の継続と変成

日程：2004 年 12 月 21～23 日

会場：沖縄大学

### ◆12 月 21 日

#### ◇プレセッション：新しい実践と関係性を求めて

趣旨説明：屋嘉比収、中野敏男

司会：戸邊秀明

自己紹介と報告：親川裕子、須永陽子、崔真碩

#### ◇インタビュー 伊佐順子：沖縄の「戦後」を語る

聞き手：宮城公子

### ◆12 月 22 日

#### ◇第一セッション：占領・復興と（軍隊の）性暴力——歴史から

##### 第一報告 宮城晴美

「沖縄の米軍基地問題と性暴力」

##### 第二報告 金貴玉（漢城大）

「韓国の基地村問題と性暴力の実態」

司会：鳥山淳

コメント：尹京順、秋林こずえ

#### ◇第二セッション：ジェンダー・セクシュアリティから占領を問う——文学から

##### 第一報告 新城郁夫（琉球大）

「沖縄占領と男性セクシュアリティの混乱」

##### 第二報告 佐藤泉

「1950 年代の『平和論』、ありえたかもしれない連帯について」

司会：宮城公子

コメント：大川正彦、千田有紀

### ◆12 月 23 日

#### ◇シンポジウム：沖縄で「戦後復興」を問い直す

総合司会：屋嘉比収、金富子

##### 基調報告 波平恒男

「1950 年前後の沖縄——軍政下の戦後復興」

##### 応答報告 道場親信

「日本の『戦後復興』——開拓・難民」

宋連玉

「在日女性にとっての『戦後復興』」

コメント：鄭根埴、若林千代、徐京植、孫歌

## 第 12 回 東アジアと沖縄

ソウル大学社会発展研究所シンポジウム

日時：2005 年 5 月 13～14 日

会場：ソウル大マルチメディア堂

教授学習開発センター

主催：ソウル大学社会発展研究所

東アジアセンター

◆5月13日

開会の辞：鄭根埴（ソウル大）

◇第一部 招請講演 中野敏男

「日本の『戦後』を問うということ——『大塚久雄と丸山眞男』の背景」

討論：チョン・ソンウ（漢陽大）、  
チャン・インソン

◆5月14日

◇基調発表 イム・ヒョンジン

「韓国で沖縄を研究するということ」

◇第二部 沖縄人が見た沖縄問題

波平恒男

「沖縄の近代史を考える——東アジアの脈絡から」

屋嘉比収

「沖縄戦の記憶について」

◇第三部 沖縄の歴史と政治

朴薫

「太田朝敷と沖縄アイデンティティ」

シン・ジュベク

「戦時動員体制期の沖縄人の日本人化過程——学校教育を中心に」

イム・ヒョンジン、カン・サンギュ

「沖縄米軍基地と国際政治」

チャン・ウンジュ（慶応大）

「地方政府と中央政府間の関係から見た沖縄問題」

イ・ジウォン

「沖縄革新自治の特性と米軍基地」

◇第四部 沖縄の社会と文化

チョン・ギョンス

「金武町新開地の民俗誌的研究報告」

イム・ギョンテク（全北大）

「沖縄本島の軍用地接収と村落社会の変容」

ムン・ソジョン

「沖縄反基地闘争と女性平和運動の展開——平和言説の政治学を中心に」

チュ・ウンウ（中央大）

「島のイメージと民族国家の凝視——現代日本映画のなかの沖縄再現についての研究」

◇第五部 研究ノート発表（ソウル大社発研）

ヒョン・ユンギョン

「米軍政下の沖縄の言論に関する研究」

キム・ミンファン

「沖縄戦争、記憶の政治学」

康誠賢

「沖縄虐殺におけるの集団自決研究」

チョン・ヨンシン

「駐韓米軍、現在の争点」

◇総合討論 司会：鄭根埴

討論：波平恒男、屋嘉比収、尹京順（淑明女大）、

チョン・ギョンス、ハン・ヨンヘ、  
イム・ジョンホン（ソウル大）

**第13回 継続する東アジアの戦争と戦後**

**——沖縄戦、済州島4・3事件、朝鮮戦争**

日程：2005年11月17～20日

会場：ソウル大学

ソウル大学社会発展研究所東アジア研究センター（沖縄米軍基地問題研究チーム）と東京外国語大学（「戦後東アジアプロジェクト」チーム）との共催にて

◆11月17日（湖巖教授会館）

沖縄問題を研究する若手研究者の会

司会：戸邊秀明 挨拶：尹京順

第一発表 我部聖

「抵抗の想像力を紡ぎなおす試み——いま沖縄文学を読むこと」

第二発表 康誠賢

「〈死〉への動員とこれに抗する可能性」

第三発表 キム・ミンファン

「日本の軍国主義と脱文脈化された平和の間で——平和祈念公園を通して見た沖縄戦の記憶の緊張」

◆11月18日（ソウル大学マルチメディア棟）

非公開研究会議

問題設定：鄭根埴、中野敏男

◇第一セッション 主題「戦争の連続」

司会：朴薫

## 18 特集：書評コロキウム まえがき

### 第一報告 屋嘉比収

「沖縄戦における住民虐殺の論理」

### 第二報告 朴明林（延世大）

「沖縄戦、4・3 事件、朝鮮戦争——その連続と意味」

### ◇第二セッション 主題「占領とは何か」

司会：シン・ジュベク

### 第一報告 チョン・ヨンシン

「在韓米軍問題における『占領』——『占領』と『解放』の意味に関するアプローチ」

### 第二報告 鳥山淳

「沖縄社会にとっての 1950 年」

### 第三報告 鄭栄桓

「占領下の在日朝鮮人運動——非常事態宣言下神戸の歴史的位相」

### ◇第三セッション 主題「戦争と文学」

### 第一報告 新城郁夫

「戦後沖縄文学における『従軍慰安婦』表象——文学のレイプ」

### 第二報告 キム・ミョンイン

「朝鮮戦争と文学——4・3 文学の歴史と争点」

### ◇総合討論

共同司会：鄭根埴、中野敏男

討論：金栄、波平恒男、李孝徳、金東椿（聖公会大）、韓洪九（聖公会大）、尹京順、金白泳

### ◆11 月 19 日（ソウル大学マルチメディア棟）

シンポジウム「戦争の映像と証言」

### ◇第一セッション 主題「沖縄戦と証言・映像」

映像：「島クトゥバで語る戦世〈集団自決編〉」

解説：比嘉豊光、仲里効

### ◇第二セッション 主題「朝鮮戦争と証言・映像」

### 第一映像 チョン・ヨンウク

「朝鮮戦争と米軍のビラ心理戦」

### 第二映像 キム・ドンマン

「身体で語る 4・3 証言」

### ◇総合討論

共同司会：鄭根埴、中野敏男

討論：波平恒男、酒井直樹、宮城公子、ヤン・ヒョナ（ソウル大）、金貴玉、金恩実、権赫泰など

### ◆11 月 20 日 フィールドワーク

虐殺現場にて

高陽クムジョン窟（延世大 イ・チュンニョル）

基地村の現在未来 東豆川

米軍基地反対運動 平澤

## 第 14 回 植民地主義とディアスポラになった

### 朝鮮人女性たち

——コリアン・ディアスポラ・ウィメンズ・スタディーズでの出会い

日程：2006 年 10 月 21～22 日

会場：東京外国語大学

### ◆10 月 21 日 公開シンポジウム

司会：尹京順、中野敏男 開会挨拶：中野敏男

### ◇基調報告 宋連玉

「いま、なぜコリアン・ディアスポラ・ウィメンズ・スタディーズか」

第一報告 チョウ・ミヒ（ミヒ・ナタリ・ルモアンヌ）

「The Comfort Children from Korea——分裂したアイデンティティを映す三面鏡」

第二報告 金富子：

「HARUKO——在日女性・ディアスポラ・ジェンダー」

コメント：韓国から 金貴玉

在米から ソン・ヒジュ（UCLA）

在日から 皇甫康子（「ミリネ」代表）

### ◆10 月 22 日 非公開フォーラム

会場：本部管理棟 2 階大会議室

第一報告 鄭暎恵

「越境するアイデンティティとネットワーク——済州島女性の過去・現在」

コメント：ヘレン・リー（フロリダ大）

第二報告 全信子（中国・延辺大）

「中国朝鮮族女性の歴史と、国際結婚の現況」

コメント：鄭幸子（ハミルトンカレッジ）

第三報告 ソニア・リャン（アイオワ大）

「朝鮮の女にイエ（くに）はあるか？」

コメント：千田有紀

◇まとめと展望～今後に向けて——総括討議

**第 15 回 戦後東アジアプロジェクト総括会議  
——『沖縄の占領と日本の復興』（青弓社）を  
書評しつつ**

日程：2007 年 1 月 14 日

会場：東京外国語大学海外事情研究所

第一部：『沖縄の占領と日本の復興』を書評する

提題：我部聖、戸邊秀明、小林知子、

板垣竜太、鄭根埴

応答：屋嘉比収、波平恒男

第二部：戦後東アジアプロジェクトを振り返る

提題：Tessa Morris-Suzuki

**第 16 回 コリアン・ディアスポラ（第 2 回）  
——ジェンダー・階級・民族**

日程：2007 年 11 月 3～4 日

会場：ソウル大学社会学部教授大会議室

共催：東アジア社会文化研究フォーラム

ソウル大学女性研究所

◆11 月 3 日

挨拶：尹京順（東アジア社会文化研究フォーラム）

全体趣旨説明：金富子

◇第一セッション 司会：宋連玉

第一報告 趙慶喜（聖公会大）

「1990 年代以後韓国における在日表象と  
Gender」

第二報告 金友子

「K.D.W とは誰なのか？」

コメント：クォン・スギン、金玟煥

全体討論 討論者：李吟京、緒方義広

◆11 月 4 日

挨拶：金世均（ソウル大学女性研究所所長）

◇第一セッション 司会：尹京順

報告 韓恵仁

「コリアンディアスポラとしてのサハリン残  
留問題と Gender」

コメント：ヨム・ミギョン、金榮

◇第二セッション 司会：尹京順

提題：宋連玉——問題提起・映画説明

映画 「芒種」

コリアンディアスポラ女性の現在

コメント：権赫泰、朴草英

◇第三セッション 司会：金富子

報告 ユン・ジョンウン

「脱北者女性の離散と現実」

コメント：金貴玉、ムン・ソジョン

◇総合討論 司会：金富子、尹京順

指定討論者 中野敏男、裴恩慶、オク・ポクヨン、  
尹明淑

総合討論まとめ：宋連玉

以上の国際シンポジウムの記録からも垣間見られる通り、われわれの共同研究は、沖縄についても、それを「沖縄研究」という個別地域研究の研究対象として孤立させて考えるのではなく、東アジアにおける植民地主義の展開の中で捉えて、広い視野からその存在と軌跡の意味を考えるものとなってきた。その一段階のまとめというべき論文集『沖縄の占領と日本の復興』（波平恒男・中野敏男・屋嘉比収・李孝徳編、青弓社、2006 年刊）は、アメリカによる沖縄占領がアメリカと連携した日本の戦後復興と並行している事態であり、この並行が植民地帝国日本の敗戦の後に植民地主義の継続を可能にする権力編成となった旨を包括的に解明して、戦後日本研究、沖縄研究に一石を投ずるという意義を持った。

波平氏の研究は、このようなわれわれの共同研究と並行して進み、われわれの共同研究に沖縄に即した実質的な歴史研究の位置から深い刺激を与

え、この連携した共同研究の全体を内容豊かに展開させていく牽引力として、つねにわれわれと共にあった。この連携の過程では、ソウル大学の鄭根植氏の招聘に応じ、波平氏、屋嘉比氏、そして私の三名が中心になって実際にソウルに出向いて、ソウル大学内の沖縄研究グループと共に組織したシンポジウムに参加するなど（2005年5月および11月）、緊密に議論を共に組織したということもあり、逆にわれわれの方にかの地から研究グループを受け入れるというようなこともあって、そのような意味でわれわれの共同研究は、東アジアにおける広い研究連携の形成と推進に実質的な寄与をなしつつ進んできたということができる。

このような連携の広がりとともに波平氏の研究が深まり、それが今回書評対象とした『近代東アジア史のなかの琉球併合』という一大成果に結実したということであれば、われわれとしてもこんな大きな喜びはないし、これを議論の対象にしないということはあるにない。そこで、この経緯を踏まえ、それについての李孝徳氏をはじめとする本学関係者の深い理解に支えられて、今回の書評コロキウムは実現に動いたのであった。

そうであれば、この書評コロキウムにおいては、本書を狭義の「沖縄研究」の枠内で論ずるということはあるにないだろう。そこで、その書評者として、一人は朝鮮研究の視野から「韓国併合」の問題にも取り組んでいる康成銀氏を迎え、もう一人は島嶼研究の視野から日本近代の地方統治の問題に取り組んでいる高江洲昌哉氏を迎えて、それにコメンテーターとして、韓国と日本とを見渡しながらその社会と思想と文化とを論じている権赫泰氏にも加わっていただき、その広い視野の布陣により議論を組織することにした。それによってこの書評コロキウムでは、本書が内包している問題把握の射程を十全に受け止め、考えられる限り豊かにかつ丁寧に問題を論ずることができたように思う。その成果が、本特集に残されているということであるので、味読して考えていただきたいと思う。

もっとも、われわれにとって悔しく残念なことは、波平氏とともに沖縄からわれわれの共同研究に参加され、ここでの共同作業を思想的にも学問的にもリードして下さっていた屋嘉比収氏が

2010年に逝去され、この書評コロキウムの場において下さらなかったことである。屋嘉比氏のご逝去は、沖縄に関連する領域のみならず広く今日の思想と学問にとって大きな損失と言う他はなく、痛恨の極みである。心からご冥福を祈りたい。

（NAKANO TOSHIO・東京外国語大学大学院総合国際学研究院）



2005年5月 ソウル大学にて

[국제공동심포지움]

**계속되는 동아시아의 전쟁과 전후**

- 오키나와전, 제주4.3사건, 한국전쟁

**継続する東アジアの戦争と戦後**

- 沖縄戦, 済州道4·3事件, 朝鮮戦争

■ 일 시: 2005년 11월 17(목) 18:00 - 21:00  
 서울대학교 호암교수회관 2층 르네상스홀  
 2005년 11월 18일(금) ~ 11월 19일(토) 09:30 - 18:30  
 서울대학교 국제대학원(140동) 2층 GL룸  
 2005년 11월 20일(일)  
 Field Work (고양, 평택 지역 답사)

■ 주 최: 서울대학교 사회발전연구소 부설 동아시아센터  
 東京外国語大学 戦後 東アジア 연구팀

■ 후 원: 학술진흥재단, 서울대학교 기초교육원

2005年11月ソウル大学でのシンポジウムの  
プログラム表紙